

JR草津線を活用した広域連携まちづくりについて①

R7.12.16 産業建設常任委員会協議会報告用
【R7.11.27 都市再生本部会議 資料】

R7.6.24 産建協議会
提出済資料

- ✓人口減少・超高齢社会の進行を見据え、草津駅周辺の役割に「県南部地域を牽引する活力の源泉」を掲げ、未来ビジョンを策定。
 - ✓JR草津駅は、滋賀県南部地域の交通結節点。駅周辺には、大規模商業施設やスポーツ施設など、広域商圏の都市機能が集積。
 - ✓南部東西移動軸の理念共有の下、JR草津線沿線市が連携。草津駅が各駅の都市機能を補完する草津線を活かした広域都市圏を形成。
- ⇒草津駅周辺への広域都市機能誘導に向け、国による「都市再生緊急整備地域」指定を目指す。

- ✓草津駅周辺のまちづくりについて官民共通の進むべき指針として『草津駅周辺エリア未来ビジョン』を策定（R7.3）

役割
(ミッション)
草津駅周辺が
はたすべき使命



県南部地域を
牽引する活力の源泉

将来像
(ビジョン)
目指す将来像

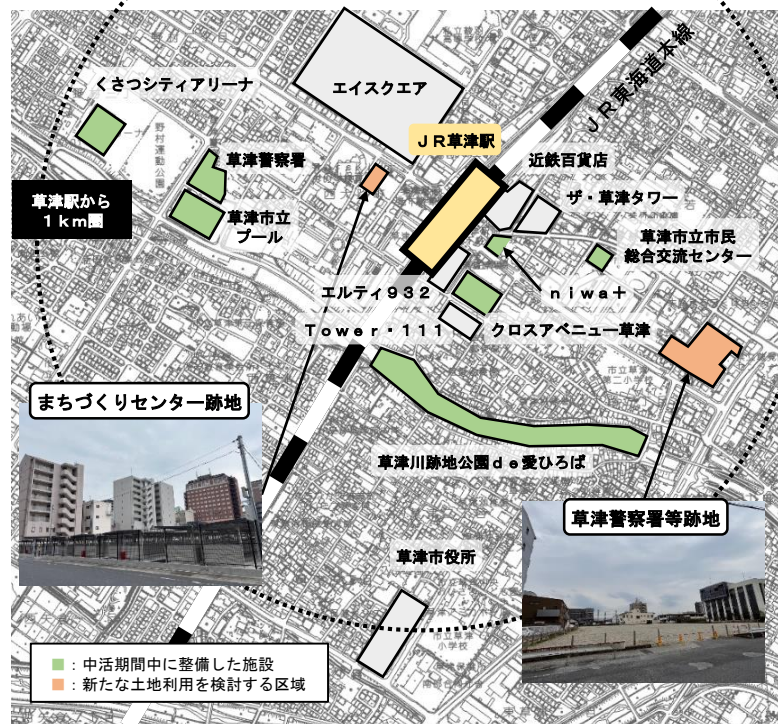


共創と挑戦が循環
健やかな暮らしが実現するまち

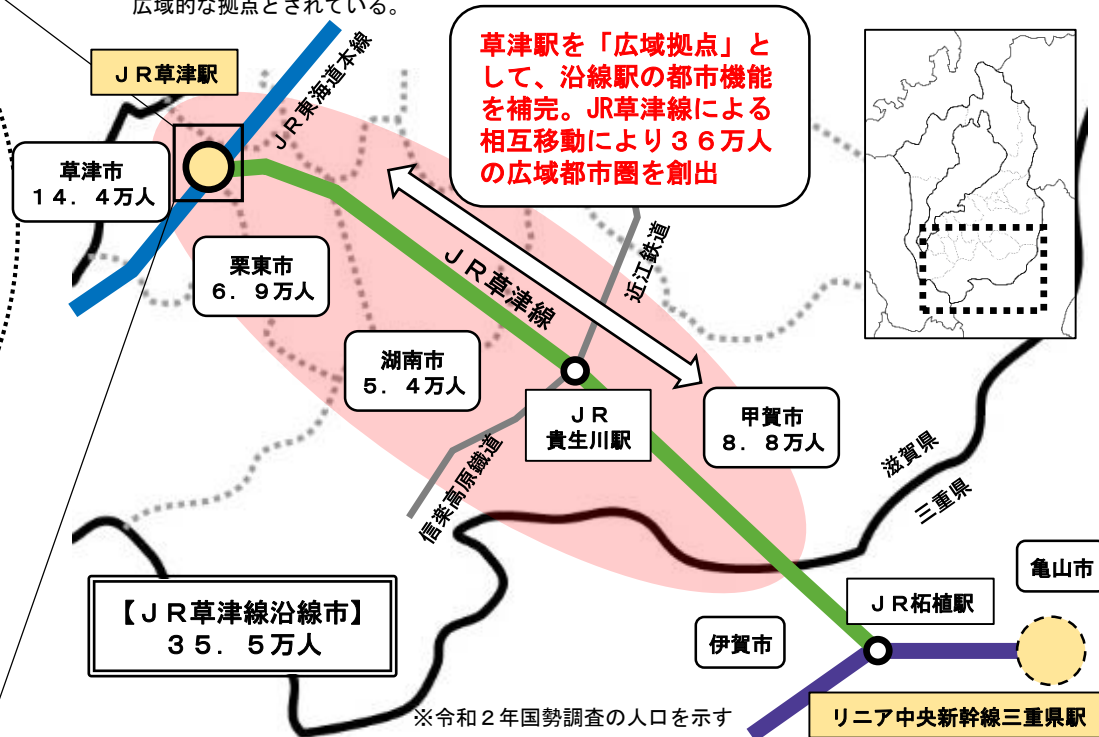
【県への要望内容】

- 「滋賀県都市計画基本方針」において、JR草津駅周辺を「主な拠点」の中の「広域拠点※」として、位置づけを明確化
- JR草津駅周辺を「広域拠点」とするJR草津線沿線市町と連携した「広域立地適正化計画」等の検討について、関係市町への働き掛けなど、「拠点連携型都市構造」の具体化に向けた県としての役割等の推進

※広域拠点とは、滋賀県の自立的発展を図るため、利用圏域が他府県にまたがるような機能を有する広域的な拠点とされている。



※まちづくりセンター跡地は令和7年3月31日まで市営駐輪場として利用



※令和2年国勢調査の人口を示す

リニア中央新幹線三重県駅

J R草津線を活用した広域連携まちづくりについて②

R7.12.16 産業建設常任委員会協議会報告用
【R7.11.27 都市再生本部会議 資料】

国による「都市再生緊急整備地域」指定に向け、「広域的な都市機能」の誘導・「広域的な立地適正化の方針」の策定が必要。

(ポイント1) 草津駅周辺に必要な広域的な都市機能(案) (ポイント2) 広域的な立地適正化の方針の策定に向けて

都市再生緊急整備地域の指定に向けて

【指定の前提条件】三大都市圏および中枢中核都市であること (R7.1.8 内閣府回答)

→代替意見: ① 滋賀県が草津駅を「広域拠点」に位置付けること

(R7.1.23 内閣府確認)

② 草津駅に都市機能を集約するような広域的な計画があること

指定に向けた対応 (R7.10.8 内閣府確認)

- ① 県都市計画基本方針の「広域拠点」に合致する都市機能の誘導
- ② 「広域的な立地適正化の方針」の策定

滋賀県が定める「広域拠点」

【滋賀県都市計画基本方針より】

(R4.3.31公表)

主な拠点		拠点のイメージ
広域拠点	利用圏域が他府県にまたがるような機能を有する広域的な拠点	国際化、情報化の進展に対応した 中枢業務機能 、高次の 医療 、多様なニーズに対応した 教育、文化、国際交流、商業等の都市機能 の集積する地域
地域拠点	複数の市町にわたるサービスや機能を有する都市・地域の拠点	都市・経済活動を支える行政、医療、教育、文化、商業等の機能を有し、不足する機能は拠点間で連携して補完する地域

国の都市再生の方向性

【国交省 成熟社会の共感都市再生ビジョン(中間取りまとめ)より】 (R7.5.16公表)

取り組むべき施策

1. 協働型都市再生によるウェルビーイングの向上
2. 余白を楽しむパブリックライフの浸透
 - ↳ 車から人中心のパブリックスペースのシフトを推進
3. 地域資源の保全と活用によるシビックプライドの醸成
4. 業務機能をはじめ多様な機能の集積による稼ぐ力の創出
 - ↳ 「ネイバーフッド単位でのイノベーションの創出を特に意識すべき」
 - ↳ 中心駅周辺にイノベーション施設等の集積を促進する制度の充実が必要
5. 共創・支援型エリアマネジメントによる地域経営

※ネイバーフッド単位…出典では「日常生活を営む身近なエリア」と定義

iJAMP記事【裏面】

◎立地適正化、オフィスも対象＝法改正で県の関与明記－国交省 (R7.10.9)

- ・立適計画の誘導施設にオフィス、**業務支援施設(共同ラボ等)**、集客施設を追加する方針
- ・国交省は**広域的な市町村の連携を推進**。県の積極的な関与が重要と指摘

中枢業務機能について

【総務省 連携中枢都市圏構想推進要綱より】 (R7.1.23改定)

連携中枢都市圏に求められること

⑦圏域全体の経済成長のけん引

→産学官の共同研究、新製品開発支援、六次産業化支援 等

④高次の都市機能の集積・強化

→高度医療の提供体制の充実、高等教育・研究開発の環境整備 等

②圏域全体の生活関連機能サービスの向上

→地域医療の充実、地域公共交通ネットワークの形成 等

ポイント1 草津駅周辺に必要な広域的な都市機能(案)

【草津駅広域誘導施設検討業務(進行中)で検討中】

- ・医療(病院)、商業・集客(大規模小売店舗、大規模集客施設)
- ・文化・芸術(文化ホール、図書館、美術館、博物館)
- ・スポーツ(総合体育館、アリーナ)
- ・国際交流(国際交流施設)、宿泊(ホテル)
- ・教育(高校、高専、**専門学校**、短大、**大学**)
- ・**中枢業務機能**(研究施設、金融機関、行政機関、**イノベーション施設**)

J R草津線を活用した広域連携まちづくりについて③

R7.12.16 産業建設常任委員会協議会報告用
【R7.11.27 都市再生本部会議 資料】

J R草津線沿線における主要駅周辺の現状



ポイント2 広域的な立地適正化の方針の策定に向けて

■草津線沿線市(栗東市、湖南市、甲賀市)

【栗東市】 10/7 都市計画課 訪問
【湖南市】 10/6、10/28 都市計画課 訪問
【甲賀市】 9/24、10/24 都市計画課、公共交通推進課 訪問

草津駅が補完する機能の議論を通して、各駅前のあり方・駅間の連携へ波及

■滋賀県草津線活性化・複線化促進期成同盟会(事務局:滋賀県 交通戦略課)

【草津市、栗東市、湖南市、甲賀市、日野町、伊賀市、滋賀県 (+JR西日本)】

・「草津線沿線まちづくり勉強会」の発足

【目的】

- ①短期:広域的なまちづくりに向けた方針の策定
- ②中長期:「駅を中心としたまちづくり」の実現、草津線のブランド価値構築
草津線の利用促進のため、各駅のまちづくりについて共有・連携